



RI 第 2 6 1 0 地区

東となみロータリークラブ会報

2014-2015 年度 No.44(特集号)

事務局(新) 〒939-1652 富山県南砺市福光新町 56

TEL 0763-55-6125 F A X 0763-55-6147、

inashorc@athena.ocn.ne.jp

2014-2015 年度 会長 坂井彦就、幹事 岩崎 修

2014-2015 年度 RI テーマ



Light Up Rotary

「ロータリーに輝きを」

(ゲイリーC.K.ホアン会長)

2015-2016 年度に向けての地区研修・協議会 特集



2015 年 5 月 24 日(日)野々市市文化会館フォルテ (ホストクラブ:野々市 RC)

2015-16 年度のための 地区研修・協議会

平成 27 年 5 月 24 日(日)野々市市文化会館フォルテ

1. 次期クラブ会長会議 11:30~
2. 全体会議 I 13:00~



***永田義邦ガバナー挨拶：** 皆さんこんにちは、私の任期も一カ月余りとなりました。ガバナーノミニーにご指名いただいた時に思ったのは、私の年度には北陸新幹線が開業するということでしたが、本年3月14日に開業しました。各方面に良い影響を与えていると思います。先般、金沢RCの80周年に出席をし、翌日、福島県の地区大会に出席のため朝6時に乗りましたら10時に着き、非常に利便性を感じました。今日は次年度に向かって地区研修と協議会を開催する訳ですが、中身の濃いプログラムが用意してありますので、研修協議を通して学びながら次年度に備えていただきたい。有意義な研修会になりますように祈念いたします。私自身、ガバナーのご指名を頂いた時にとってもリーダーは務まらないと思いましたが、以前に読んだ本には、リーダーの条件は、人、知、勇を持った人である。人格の人、知識の知、勇気の勇、行動力の持った人、これらが備わっているのがリーダーである。自分に置き換えてみますとどれも完成されたものがありません。ところが本の中に助けられた内容が記述されていました。リーダーの要件である三拍子そろった人は希である。一つや二つ欠けていてもリーダーは務まるということでした。それはいろんな方々から助けられる、協力者の組織を持ってリーダーが務まるのである。そういうことも含めまして当時は引き受けました。その後、国内、国外の研修に参加し準備をしまいいりました。ガバナーになりましてからは公式訪問等において各クラブより暖かい歓迎を受け、卓話もさせていただきました。その折にRIの戦略計画の話もしてまいりました。今日もこのあと講師の中村RLI (Rotary Leadership Institute) 日本支部事務局長の講演もありますので、コーディネーターから周知徹底を図っていただきたいという要望が年間を通して来ておりました。このことを柳生ガバナーエレクトも必要性を感じておられまして、分科会のテーマにも取り上げられています。110年経ちましたRIそのものの課題の中から出てきているものであります。私は地区の目標というものを掲げました。その結果は、任期が終わらないと出ませんが、例えばロータリー財団につきましても1人100ドルをお願いし、25万5千ドルの目標に対し現在、4月時点で23万3千ドル程になっていますので目標を達成できるものと確信しております。米山奨学会につきましても、6月

末までにほぼ達成するものと思っており、例年通り奨学生の選考を行っております。改めまして皆様のご協力に感謝いたします。これらの資金は何れも有効に活用されています。特にグローバル補助金につきましては、午前中に金沢医科大学と学生の派遣について締結をさせていただきました。1年を振り返りますといろんな大きな行事もありました。文化庁の近藤長官をお招きしての地区大会もあり、ロータリーデーの開催などRI会長の方針に従いまして行うことができました。私のテーマとして「ふるさとを育み世界の平和へ」を掲げさせていただきましたが、「ロータリーに輝きを」の精神と一致しているという思いでさせていただきました。私自身がいろいろと学ばさせていただいたという感じがしております。ロータリーはよくアイサーブかウイサーブかといいますが、アイサーブが本質だろうと思っております。プログラムに取り組むエネルギーや友情を深めながらボランティアを行う等、沢山目指していただきました。その中で自分自身が磨かれていくということを感じました。1人では味わえない感動も感じました。ロータリーでよく言われています、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」を感じさせていただきました。これからは私の人生にとってロータリーは離れられない、天寿を全うするまで続けたいと思っております。いよいよ柳生年度が始まりますが、岡部ノミニーともどもいろんな場に出させていただきます。共鳴共感することが沢山ございました。柳生エレクトも真正面から向かっておられ、地区のレベルアップのため研究会を立ち上げていこうなど果敢に取り組もうとする姿勢が感じられます。最終的には、それぞれのクラブの活性化に繋げようという結論であります。「地域の中で存在感のあるロータリーになっていこう」RI会長の方針でありますし、RI戦略計画の方針でもあります。毎年ステップアップしながら2610地区が輝くような地区になればよいと思っております。【文責：中島次期幹事】



***柳生好春ガバナーエレクト所信表明:** ロータリアンの皆さんこんにちは。バストガバナーの皆さんありがとうございます。資料に地区のテーマが載っています。「Be a gift to the world」～世界へのプレゼントになろう～これは間違いではありません。ラビ・ラビンドランRI会長のテーマであります、それをそのまま地区のテーマとする。私の年度はこのテーマにしたいと思います。2015-16年度はテーマは一つ、地区大会のテーマも一つです。エレクトの皆さんも最初は gift にはびっくりしました。しかし、話を聞けば聞くほど含蓄がある。Giftという言葉には、天から与えられた才能、という意味があるらしいです。その人独自の才能のことだそうです。世界のため、世のために私たちが持っている能力を出そうじゃないか、素晴らしいテーマでないかと思っています。一方、永田ガバナーは、「ふるさとを育み世界の平和へ」ということで頑張ってきました。素晴らしいテーマであったと思っており、委員会のテーマとして引き継いでいきたいと考えています。私たちはよく、ロータリーの原点に戻ろう、といいますが、皆さんロータリーの原点とは何ですか。人によってはいろいろ違うと思います。それは親睦だ、いや社会奉仕だ、職業奉仕だと様々であります。そういうこともありましょうが、あるバストガバナーがおっしゃいました。ロータリーの原点に「みんなで語り合う」ということがあるでしょう。なるほどと思いました。ポール・ハリスはじめ4人が1905年に社会的に荒んだ状況の中で、友情を求めてお互いの所をぐるぐる回って語り合った。この語り合うということは素晴らしい原点でなかろうかと思っています。もう一度確認して取り組んでいきたいと思っています。RI戦略計画について今よく言われています。私も国際協議会に出席して叩き込まれたような感じです。RI戦略計画は何故でてきたか、2010年に正式に発表されています。その前年の2009年に数千人の意識調査を行い、そこから出てきたのがRIの重点項目です。1つは、クラブのサポートと強化。2つには、人道的奉仕の重点化と増加。3つには、公共イメージと認知度の向上。この3つですが、これは危機感から出てきたものです。先進国のロータリーがどんどん減ってきた。発展途上国の増加で何とかお茶を濁している。もともとのロータリアンだけで言えば、激減している現状です。この現実を私たちはしっかりと確認してい

きたいと思います。戦略という言葉にアレルギーを持たれる方もおられますが、中期・長期の計画だと思っていただければいいと思います。今回の分科会はこの戦略計画に基づいて3つの分科会を設定させていただきました。十分に議論していただいてクラブの活性化に役立てていただければ幸いです。また、現ガバナー補佐さんからの助言でありました、新会員のための分科会を作ってもらえないか。それを聞きまして早速、今回の分科会の一つとして設けました。従来の縦割りの奉仕部門の分科会ではなくて、RI戦略計画が皆さんのクラブで浸透するように考えた分科会構成にさせていただきました。私はCLPが出てきたころから一つの問題意識を持っています。ロータリーの単年度主義、素晴らしい主義です。ですが今ロータリーの単年度主義に限界が来ているのではないかと思います。1年で代わってしまう。そこをどう結び付けるのか。折角身につけた経験、非常に勿体ないことです。CLPでは3年委員会にして、3年くらいは同じ委員会に所属して、的を絞って一貫してクラブの特徴を生かしたものにして行こうという考えです。だいぶロータリーも変わってきたと感じ始めています。戦略計画も全く企業並みです。目標設定を要求されます。親睦中心のロータリーから結果を求められる企業体としてのロータリーが求められています。良いか悪いかは別です。疑問を持たれる方もおられると思います。共同体から企業体に大きくかじ取りをされてきています。私たちの意識は依然としてこのままの場合が多いのです。RIと我々の乖離がどんどん広がっていく。そういう時代ではないでしょうか。私は、RI唯一の地区の役員ということで、RIを批判することはできませんが、どうかと思うところが沢山あります。私は職業奉仕が大事だと思っていますが、従来のものではなく職業というものを土台にしてしっかりと職業の繁栄を築いて、そして社会奉仕、国際奉仕を行う、この原点をもう一度皆さんと共に確認してまいりたいと思っています。「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」あれは明確な経営学の顧客に対するサービス、取引業者に対するサービス、従業員に対する考え方を示しています。合理的な科学的なサービス学です。そんな思いから資料の表紙の裏に書かせていただいております。改めて標語に注目していただきたい。私たちには哲学があります。他の激減している奉仕団体と違うのであり

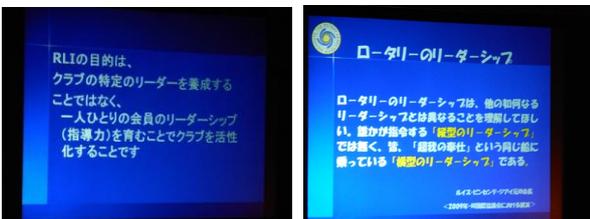
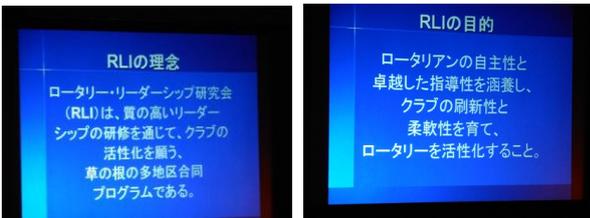
ます。アイデンティティがあるからロータリーは歴然とした存在として継続されております。新会員の方に訴えたいのは、ロータリーに入って勉強になった、リーダーシップが磨けたな、先輩諸氏からいろんな勉強ができた、そういう素晴らしいロータリーになればいいと思っています。皆さんのクラブが少しでも活性化するように微力ながら頑張っていきたいと思っております。

【文責：中島次期幹事】



*講演「RLI(Rotary Leadership Institute)・ロータリーを語ろう」

講師：RLI 日本支部事務局長 中村靖治氏(吉川 RC)



3. 分科会 15:05～



・第1分科会(テーマ：クラブのサポートと強化)【会長・幹事・役員・クラブ奉仕A・職業奉仕・米山】

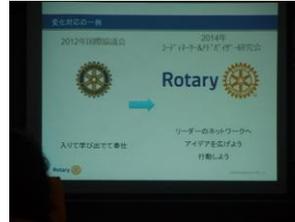
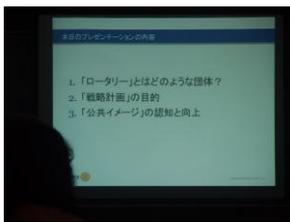
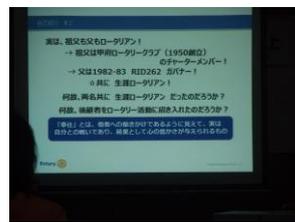
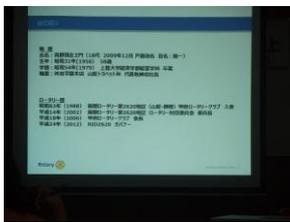


・第2分科会(テーマ：人道的奉仕の重点化と増加)【社会奉仕・青少年奉仕・国際奉仕・財団】

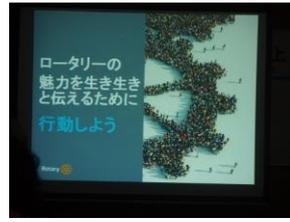
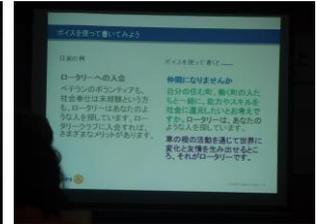
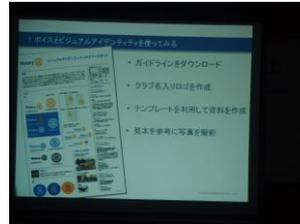
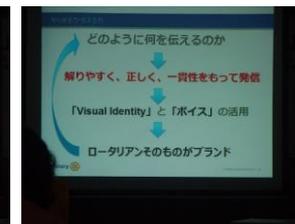
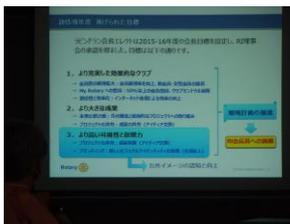
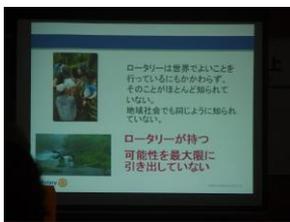
・第3分科会(テーマ：公共イメージと認知度の向上)【クラブ奉仕B：雑誌・広報】



講演：高野孫左エ門氏



ロータリーのマークが変わりました。徽章は元のまま、会合で、外に対して使う時は新しいマークで！



HP を斬新なものに！

・第4分科会 (テーマ: ロータリーとは何か) 【新入会 (入会3年未満)】

4. 全体会議Ⅱ 16:50~



【ガバナーラベルボタン伝達を終えた永田ガバナー】

最後、「手に手つないで」で、閉会。